

第76回級段位審査会 総 評

《「悪い癖」と「良い習慣」》

2023年7月9日(月)、第76回級段位審査会が無事終了しました。

今回は受審者数が23名と、これまでの76回の審査の中では飛び抜けて最少の人数でした。始まるまでは、今回は寂しいかな・・・?とと思っていましたが、いざ会場に入り、審査が始まると、これまでにないゆったりした空気感の中で、皆さん一人一人の座禅が整然として、とてもきれいだったことが、まず印象的でした。

そしてこれを取り上げないわけにはいきませんね。

初めのあいさつで、

「補習会、講習会、練習会と、いろいろなイベントがありますが、それらはどうしても受け身の参加になりがちです。しかし、この審査会こそは、皆さん一人一人が主体です。」

と、話しました。

それを体現したかのような、選択種目「舞」での、「VIVA 桃源郷」。

今回、皆の気持を一つにしたきっかけは、ただ一人、それを選択した受審者の、出だしの華やかなアクション『VIVA!』だった、と僕は感じています。まず、同じ教室の人、そしてやがては皆が手拍子で彼女に声援を送る。あの景色は、皆が彼女を応援した、というより、彼女が皆を牽引していました。これまでも、受審者の一瞬の立ち居振る舞いに惹きつけられる様々な場面に出会えるのは、皆さんと同様、審査会の醍醐味ですが、今回はそれが一つの結晶になった3分間でした。

受審者数とは別に、もう一つの今回の傾向は、長く続けている人、有段者の割合が多かったことです。そこであぶり出されるように見えてきたものが、今回のタイトル「悪い癖」と「良い習慣」です。

始めた頃は、全てが新しいことで、それを繰り返すことが練習です。1回でも多く繰り返すことで少しずつ動けるようになるわけですが、一方で、それを続けることで、そこに誰もが陥りがちな、さらにはその人固有の「癖」が表れてきます。

さあ、そこからが問題です。「悪い癖」は、ただ何かを繰り返しているだけで自然について来るものです。しかし、「良い癖」というのは放っておいてもそう都合良くはついてくれません。一方でこの「悪い癖」は、部屋の中のゴミのようなもので、自然に溜まると同時に、その人固有のゴミも溜まります。それをそのまま放置して、長く続ければ続けるほど、溜まり、こびりつき、取れにくくなります。

そんな時、あなたならどうするでしょう？

それでもなお、ひたすら部屋そのものを、ここはこう、あそこは・・・、と美しく飾ることに精を出すでしょうか？

それとも、部屋の掃除をしよう、と思い立つでしょうか？